

(6) 2018年(平成30年) 2月22日(木曜日)

この間テレビを見ていて、あるアルコール依存症者の自助グループが、ミーティングの前に皆で一緒に「ニーバーの祈り」を祈っている場面が目に入りました。

アメリカの神学者のラインホルド・ニーバーが、1943年の夏、マサチューセッツ州西部の山村のある小さな教会で説教した時に祈ったと

ともすれば私たちは臆病になつて、自分の力で変えられること・変えるべきことに挑戦することを避けてしまいがちになります。そして同時

ニュースを見ると、そのことをさらにハッキリと認めざるを得なくなりそうです。

ある行為ではないだろうかと思えます。

主よ

変えることのできるものについて、

それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、

それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、

識別する知恵を与えたまえ。

南加キリスト教教会連合

ニーバーの祈り

キム・ホンソン

「尊い命が犠牲になることすらも致し方ない」としてしまふ世界のすべての紛争とその対決の原因は、実は私たちが変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別することができず、混乱しているからではないでしょうか。

自分の要求や主張を力づくで相手に受け入れさせる試みをやめて、相手の頑さがどこから来るのかを知る努力を始めることこそ、変えられない

ことを受け入れて、変えられないことを変えようとする勇氣

に、変えられないことを変えようと、もがき苦しむことがいかに多いのでしょうか。宗教、文化、歴史観の違いで対

立する国家間の強硬政策や民族グループ間の紛争などの

先日「はい、どうぞ」という言葉を覚えたばかりの2歳と2カ月になる息子が、小さいコップにボトルから水をついで「はい、どおじよ」と差し出してくれました。「おいしい」と飲み干しながら「もう一度はなくて、もうやめて与えることこそが私たちにできる最小にして最大なことなんだな」とつくづく思ったものです。しかし、3杯目を過ぎたあたりからは、相手を傷つけないで断る方法がわからず困っている自分自身がそこにいました。

(CTKルーテル教会牧師)